

あなたの笑顔

川村木綿子

青森県・17歳・高校生

お久しぶりです。元気にしていますか。大学生活は充実していますか。御飯をきちんと食べていますか。洗濯物をためていませんか。といっても、あなたにとって私は、「初めまして」の方が合っているのかもしれないね。

あなたが高校を卒業してから、すでに1年と半年。あなたの記憶の中からしだいに薄れてゆく毎朝の電車の中で、私はいつもいつも、あなたの姿を探していました。

初めてあなたを見た春、名前を知った初夏、そしてあなたの笑顔を見た日々。あなたにとって何気ない日が、私にとっては今でも忘れられない記念日でした。

ラケットを握りしめていた大きな手も、ドアをくぐり抜けるときかがまないとけないほど高い背も、白い顔にちょっとピンクのほっぺたも、みんなみんな好きでした。そして何より、体の不自由な人たちに席を譲り、声をかけてあげるあなたの優しさが私にとっての幸せでした。

あなたの胸に輝いていたあこがれのH高校のバッジ。いくらがんばっても同じ屋根

の下で過ごすことなんてできないけど、せめて後輩になりたい、同じ校舎で、同じ環境で同じことを学びたい。あなたのおかげでがんばることができました。どんなに頑張っても、あなたの笑顔で乗り切ることができました。

今、あなたがいた校舎で学んでいます。好きな人もできました。あなたによく似たクラスメートです。

結局あなたの思い出にはなれなかったけど、私にとってあなたの思い出は宝物です。あなたが、自分が望む未来へはばたいてゆけるよう、私の羽を贈ります。

またいつか、会える未来を夢んでいます。

※私は今高2ですが、この人は中1の時からあこがれの人でした。毎朝の通学時間、学校へ行ってからの友人とのおしゃべり。彼について話す時が一番の幸せでした。